

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 8 月 18 日現在

機関番号：30121

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K17433

研究課題名(和文) 看護師の判断力評価ツール：「患者の治療決定における看護支援振り返り」尺度の洗練化

研究課題名(英文) Refining a Tool for Evaluating Nurses Judgments: Scale for Nurses to Reflect on and Rate Their Support for Therapeutic Decision-Making

研究代表者

尾形 裕子 (OGATA, Yuko)

北海道文教大学・人間科学部・准教授

研究者番号：40738358

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は看護師の判断力評価ツールである「患者の治療決定における看護支援振り返り」尺度の大規模調査を行うことにより洗練化を目指した。対象者は、看護基礎教育終了後の臨床経験1年以上で治療決定の支援を日常的に実践している看護師とし、対象者が所属する施設に調査を依頼して対象者に自記式質問紙を配布し、郵送法にて回収した。有効回答は539部(39.7%)であった。分析により21項目5因子構造の尺度となり一定の信頼性と妥当性があることが確認された。本尺度は看護師が臨床で治療決定の支援をする場面で判断力の自己評価として用いることが可能である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護師は専門職としてたえず自身を評価し、評価の成果を得るべく努力することで、専門性を深めるといった発展が期待されている。看護師の判断力評価ツールである、「患者の治療決定における看護支援振り返り」尺度を看護師が活用することで、患者の治療決定のために行った看護支援を評価し、臨床での新たな知識の修得と判断力向上の学習方略に加え、看護師の責任感と役割意識を促進し専門性の探求に役立つと考える。

研究成果の概要(英文)：This study aims at refining the Scale for Nurses to Reflect on and Rate Their Support for Therapeutic Decision-Making, a tool for evaluating nurses' judgments. For this purpose, a large survey was conducted. The surveyed nurses were those who had at least one year of clinical experience after completing basic nursing education and who supported therapeutic decision-making on a daily basis. The healthcare institutions where these nurses were working were asked to cooperate, and self-administered questionnaires were circulated. Questionnaires filled out by nurses were mailed back by post. There were 539 valid responses (RR=39.7%). As a result of the survey, it was confirmed that the refined rating scale, which consists of 21 items for item analysis and 5 factors for exploratory factor analysis, had a certain level of reliability and validity. Thus, it can be used by nurses for assessing the judgments they make in their support of therapeutic decision-making in clinical practice.

研究分野：看護学

キーワード：臨床判断 治療決定 振り返り

1. 研究開始当初の背景

看護師は、様々な看護場面において自らの行為を決定していく必要がある。看護師の行う臨床判断は、患者ケアの状況を熟慮し決定することである (Corcoran, 1990)。看護師は実践した行為を振り返ることで判断と知識を統合させて、その場で起こっている状況を把握する手段としており、振り返りが臨床における判断力育成の手がかりとなる。振り返りとは、自分の行為を結果と結びつけ考えることであり、臨床判断の構成要素の1つとされている。そして、振り返りには“行為の後の振り返り”と、“行為しながらの振り返り”の2つのスタイルがあり、互いに関連し合い既習の知識や思考の習慣を問い直すことで知識を構築する (Tanner, 2011)。看護実践における行為の振り返りの特徴として、状況依存が関与する。迷いが生じながらも自分の行為を決定し、その行為が看護者としての責任に結び付けて考える場面に置かれることで、振り返りは明確化されると考えた。

判断に迷いが生じる場面とは、がん疾患や進行性の難病患者等の治療決定が困難となる患者への支援と考える。今日では、高度先進医療と医療に求められる価値の多様化により、看護師は患者とその家族の治療決定を支援するという役割を担っている。治療決定の支援とは、患者が医師から提案された治療を行うか否かを意思決定するにあたり、必要となるケアを直接的・間接的に行うことである。

治療決定の支援に関するこれまでの研究では、がん疾患や進行性の難病といった治療決定が困難な疾患を持つ患者に焦点をあてた研究が行われ、看護師の支援の在り方や、役割葛藤など、看護師自身の体験から支援内容や影響する要因を明らかにした研究もあるがまだわずかである。治療決定が困難な患者への支援は、状況や対象者自身の特性による個別的な結果となるため、援助の良し悪しを一般化することはできず、自身のケアを評価することは難しい。しかし、どのようなことをよく考えて支援を決めたのかという、看護師の熟考の程度を評価することは可能と考える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護師の判断力評価ツールである、「患者の治療決定における看護支援振り返り」尺度を開発し、洗練化することである。洗練化された尺度を使用して看護師が自身の看護実践を振り返り自らの実践を評価することは、判断力向上と専門的な知識の探求につながることができると考える。

3. 研究の方法

尺度開発は、以下の手順で進めた。(図1)。最初に、質的帰納的研究によって患者の治療決定における看護支援の振り返りの下位概念を抽出した。次いで下位尺度案を作成し、質問調査を実施して尺度の妥当性・信頼性を検討した。これまでの課題として回答者が質問の意味を理解して回答できるように表現を修正することと、調査施設が少なく回答に偏りが生じている可能性を踏まえて調査施設を拡げることで、尺度の洗練化を目指した。

(1) 調査期間

2019年2月~4月

(2) 研究対象者及び調査方法

看護基礎教育終了後の臨床経験1年以上で、治療決定の支援を日常的に実践している看護師とした。対象施設は全国のがん診療連携拠点病院、難病医療拠点病院、救命救急センターをもつ施設とした。研究協力の承諾が得られた医療施設の所属長を通して推薦を受けた対象看護師に自記式質問紙を配布し郵送法にて回収した。139施設に所属する1359名の看護師に調査用紙を配布した。

(3) 調査内容

対象者の属性は、性別、年齢、実務経験年数、部署経験年数、看護実践能力の評価方法であるクリニカルラダーのレベルとした。患者の治療決定の背景は、場の特性、患者が受けているもしくはこれから受ける治療、医師が提案した治療方針、支援の対象、行った支援をとした。

患者の治療決定における看護支援の振り返り尺度21項目、社会的クリティカルシンキング志向性尺度27項目(中西他, 2006)、臨床看護師の道徳的感性尺度34項目(中村他, 2003)とした。

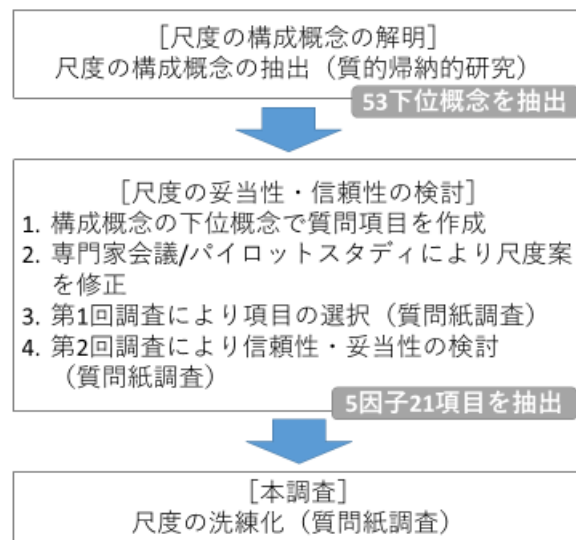


図1.研究の流れ

(4) 分析方法

患者の治療決定における看護支援の振り返り尺度は、尺度の項目分析を実施したうえで探索的因子分析ならび確認的因子分析を行った。内的整合性では Cronbach の係数を算出した。基準関連妥当性では外的基準として社会的クリティカルシンキングの志向性尺度と臨床看護師の道徳的感性尺度を用いて Spearman の順位相関係数を算出した。

(5) 倫理的配慮

本研究は、筆者の所属する北海道文教大学の倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 30018）。対象者には研究の趣旨、研究の参加や中断はあくまでも自由意思でありいつでも協力を取りやめることができること、結果は研究発表や学術論文として公表されることを文書にて説明した。対象者には、所属長を通じて質問用紙を配布し、研究協力の意思確認については、回答の回収を持って研究参加の同意とすることを研究協力依頼の書面に明記した。回収したデータは、研究以外の目的で口外せず、研究者が保管場所を固定し厳重に管理し個人情報保護した。

4. 研究成果

調査では 672 部（回収率 49.4%）を回収し、属性以外の質問項目に欠損値を含むデータを対象外とした有効回答は 539 部（有効回答率 39.7%）であった。対象者の性別は女性が 92.2% で男性 7.8%、平均年齢は 38.25 歳（SD ± 8.95）、実務経験年数の平均値は 15.20（SD ± 8.45）、部署経験年数の平均値は 4.27（SD ± 3.11）、クリニカルラダーレベルの平均値は 3.26（SD ± 1.06）であった。対象者として所属長より推薦を受けた看護師の平均年齢やクリニカルラダーレベルから、一人前から中堅以上の看護師が大半を占めており、経験したことを振り返るための状況把握はできている集団であったといえる。治療決定の支援の背景で多かったのは、疾病の場では、がん疾患病棟、一般外来、難病；神経難病等であった。患者が受けているもしくはこれから受ける治療では、化学療法、緩和ケア、手術療法といったがん疾患に特化した治療や、薬物療法といった難病患者に特化した治療であった。行った支援では、情報提供、医師の説明の補足、多職種との連携、苦痛症状の緩和であり、困難な治療を決定する患者への直接的・間接的なケアが反映していたといえる。これらのことから、適切なデータ取ることができたと解釈する。

項目分析と探索的因子分析により 21 項目 5 因子構造を確認した。確認因子分析によるモデル適合により構成概念妥当性は確保できたと考える（図 2）。

患者の治療決定における看護支援の振り返り尺度は、外的基準である社会的クリティカルシンキング志向性尺度と臨床看護師の道徳的感性尺度とに相関が認められ、基準関連妥当性が確保されたと考える。信頼性の検討では Cronbach の係数は項目全体では .935、因子別では .875 ~ .696 であり、内的整合性が確認された。

尺度の構成では、本尺度は 5 因子構造を確認している。1 因子 医療チーム状況の把握 は複雑な治療や意思決定に向けたチーム医療の重要性を反映した因子である。2 因子 看護師の役割認識 は看護師の責任感と役割意識を促進し専門性の探求に役立つと考える。3 因子 患者・家族の背景の把握、4 因子 治療状況の把握 は、支援のための基本的な情報収集であり看護実践に共通するの基礎的能力といえる。そして、5 因子 患者・家族の意向の吟味 は他の 4 要因との関連が強くあり、支援が対象にとってよりよきものとなっているかといった振り返りの重要な因子として捉えることができる。本尺度は振り返りの要素と支援の具体的内容を包括していると解釈でき、内容的妥当性を確保したと考える。

したがって、本尺度は一定の信頼性と妥当性があり、看護師が治療決定が困難な患者への意思決定支援の振り返りを測定し、自ら判断力を評価するためのツールとして活用することが可能になると考える。

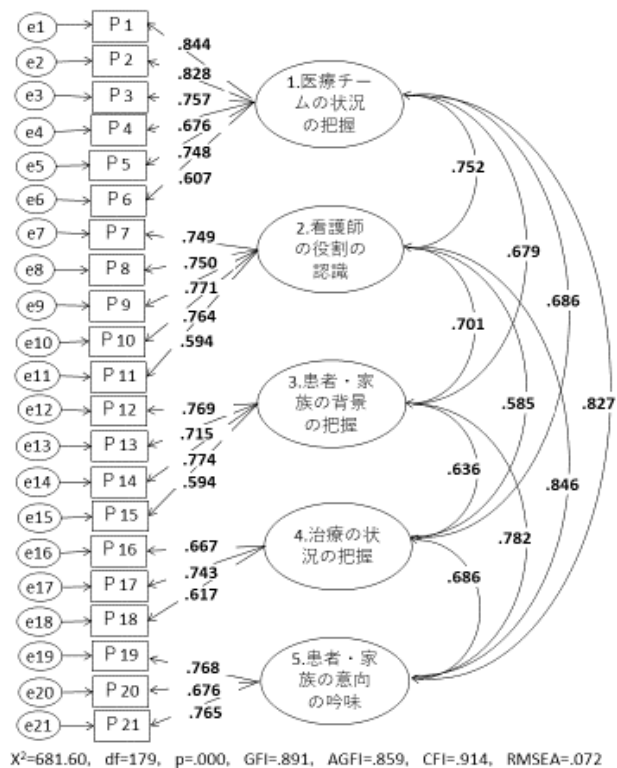


図2.確認的因子分析の結果 (N=539)

文献

- Corcoran, S. A. (1990): 看護におけるクリニカルジャッジメントの基本的概念, 看護研究, 23(6), 7-12.
- 中村美知子, 石川操, 西田文子 (2003): 臨床看護師の道徳的感性尺度の信頼性・妥当性の検討, 日本赤十字看護学会誌, 3(1), 49-58.
- 中西良文, 廣岡秀一, 横矢祥代 (2006): 動機づけと社会的クリティカルシンキングとの関連: 大学生の「感じる力」と「考える力」, 三重大学教育学部附属教育実践総合センター紀要, 26, 57-66.
- Tanner, C.A (2011): 看護実践能力の育成・向上のための臨床教育方法の検討 臨床対話: 臨床教育の再設計 (Clinical conversations: Clinical Education Redesign), 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業 看護基礎教育の充実及び看護職員卒業研修の制度化に向けた研究 平成 22 年度統括研究報告書, 82-99.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 尾形裕子
2. 発表標題 患者の治療決定における看護支援の振り返りに影響する要因
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------